

安全のパラドックス

低迷する安全対策

ホームが狭くて安全確認がしにくい」 「TVの映りが悪い」、このような乗務員の声に対して、会社は安全設備を整える等の対策をとっていますか？乗務員日誌で申告しても、「まだ大きな事故は何も起きていないから大丈夫」、時間をかけてしっかり確認するように」と言われ、何も解決しないことが多いのではないのでしょうか？お分かりの方も多いかと思いますが、乗務員の立場としては、できる限り列車を遅らせたくありません。私たちは人間です。安全が大事」と理性のレベルでは分かっていることも、発車時刻が過ぎ去っていくことに対する感情的な焦りを避けることはできません。そもそも、まだ何も起きていないからという理由で対策をとらなくていいのでしょうか？それだと、乗務員が、まだ取り扱い誤りを起こしていないから、基本動作は手順どおりにしなくても大丈夫」と言っているのと大して変わりません。

また、乗務員が取り扱い誤りを起こしたときには、過剰な責任追及がなされたり、基本動作の手順を変えたりと、おかしな方向で対策がとられ、ホームの設備や要員、睡眠時間等、労働環境についての議論はないがしろにされます。みなさんは、事故を防ぐためにはどちらの要因を重視すべきだと思いますか？

崩れゆく安全神話

昨年の12月に発生した、新幹線のぞみ34号の台車に亀裂が見つかった問題は記憶に新しいと思います。今回の事故は、新幹線開業以来初の重大インシデントとして指定されました。この事故については様々な指摘がありますが、今回はつきりとしたのは、絶対に安全と言われてきた新幹線であっても、このような重大事故を起こしてしまうことがあるということです。

JR九州でも28年度には、架線切断やシステムダウンなどの重大事故が相次ぎ、お客さまに多大な迷惑をおかけしましたが、現場ではダイヤ改正の度に合理化が進められています。本当にこのままで安全が守られるのでしょうか？安全安定輸送のためには、プロ意識だけでなく、経費をかけることも必要です。

基本動作の数が増え過ぎて作業がスムーズにいかない。このあいだは、駆け込みのお客さまに気づけなかった。



一人あたりの作業が増えすぎて、細かい確認ができない。



第 87 号

2018年 2月1日

発責 国労九州本部

博多区博多駅東3丁目9番3号

ニッコーハイツ1003号

JR 092-2075

NTT092-483-1515